

年間第十七主日（主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

（一）聖書朗読：マタイ 13：44-52

イエスは言われた：天の国は畑に隠されている宝または高価な真珠のようなものである。見つけた人は、そのまま隠しておきた。そのために、持ち物をすっかり売り払いました。また、天の国は、網が湖に投げ降ろうされ、いろいろな魚を集めることである。よいものを器に入れ、悪い者は投げ捨てる。世の終わりにもそうなる。天使たちが来て、人々の中にいる悪い者を選び分け、燃え盛る炉の中に投げ込むのである。

（二）カテキズムの響き：『カトリック教会のカテキズム』の番号#310-312、314、328-333、1034-1345、1817、1821；YOUCAT #54、89、161-162

イエスはしばしば、消えることのない火について話されました。それは、生涯の終わりまで信じることも回心することも拒み続ける人々のために残されたものです。そこでは、霊魂も肉体もともに滅ぼされうるのはです。それで、教会は地獄の存在とその永遠性とを教えています。地獄の苦しみは、永遠の火において神との決別の状態が永遠に続くということなのです。しかし、正しい人には、神のうちに自分が造られた目的であり願望的である命と幸せとを見つけることができるのです。だから、イエスは深刻な言葉で、「人の子は天使たちを遣わし、不法を行う者どもを自分の国から集めさせ、燃え盛る炉の中に投げ込ませると述べられました。」天使たち純粋に霊的な被造物であり、何よりもキリストのものであるのは、キリストによって救いの計画の使者とされたからです。天使は世界創造のときから、救いの歴史を通して、この救いを何らかの形で告げ、神の計画の実現に奉仕しました。また、キリストの生涯は、天使たちの礼拝と奉仕に囲まれています。世の終わりに、天使はキリストの再臨の時にこれを告げ、審判の席に待るはずで

理性的で自由意志を備えている被造物である天使と人間は、自由に選択し愛を優先させることによって、究極目的に向かって進まなければなりません。神は被造物の自由を尊重して、道徳的悪を妨げませんが、神が無限の英知と善とをもって、その全能の摂理により、被造物によって造られた悪、たとえそれが道徳的悪であっても、その悪の結果から善を引き出すことができになることを、人々は時とともに理解することができるのです。人々は神の摂理によって敷かれた道を知りませんが、道の終わりに至り、完全な知識を得りました。その日、その時を知らないのですが、希望という対神徳によって、正しい人はキリストの約束に信頼し、聖霊の恵みの助けにより頼み、天の国と永遠の命を待ち望みます。神は救いの道を通して、被造物に悪と悪の悲劇を踏み越えさせながら、天地を造られた目的である決して終わることのない幸せへと導いておられます。

（三）カテキズムの学び（『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号#385、387、60、212）

「対神徳」は信仰と希望と愛です。：

「希望」とは、キリストの約束に信頼をおき、聖霊の恵みの助けにより頼み、神に永遠の命と幸せを求め、期待する対神徳です。

「天使」とは純粋に霊的で、体を持たず、目に見えない不死な被造物で、神に栄光を帰し、神に仕え、人を守る使者です。

「地獄」とは、自らの自由な選択によって、大罪のうちに死ぬ人々の永遠の責め苦のことであり、永遠の火における神から永遠に離れることにあります。

最後の祈り：「守護の天使への祈り」

（カトリック・カテキズム要約の付録A.「共通の祈り」の参考）